

慢性副鼻腔炎におけるブロンカスマ・ベルナのネブライザー療法について

広島大学医学部 耳鼻科

世良公志, 平川勝洋, 大屋耕子
夜陣紘治 原田康夫

厚生連吉田総合病院 耳鼻科

二宮優子

庄原赤十字病院 耳鼻科

高野明

<はじめに>

上気道の常在菌である Pneumococcus, Streptococcus, Staphylococcus 等の死菌製剤であるブロンカスマ・ベルナは、鼻アレルギーに対する非特異的減感作療法として使用されている。一方、慢性副鼻腔炎の成因に細菌による感染アレルギーが関与している事が従来より指摘されており、慢性副鼻腔炎に対してもブロンカスマ・ベルナによるワクチン療法が最近行なわれつつある。

今回、我々は、慢性副鼻腔炎に対してブロンカスマ・ベルナの鼻ネブライザー療法を施行し、その有効性ならびに安全性について検討したので報告する。

<対象及び方法>

対象は、昭和60年4月より60年9月までに慢性副鼻腔炎と診断された13例で、年齢は20歳から70歳まで、性別は男性4例、女性9例だった。なお、鼻茸のある症例、急性発熱性疾患を合併している症例、腎炎のある症例は除外した。

投与方法は、ブロンカスマ・ベルナ原液0.5mlを生理食塩水又は注射用蒸留水に溶解した6mlを1回量とした超音波ネブライザーを週2回、8週間行った。効果判定は、自覚症状、他覚所見、X線所見を参考にして、4週後、8週後に判定した。

<結果>

表1は、自覚症状、他覚所見、X線所見の重

表1 自覚症状

	鼻漏	後鼻漏	鼻閉	頭重(痛)	嗅覚障害
卅	始終はなをかむ	常にある	全く通らない	仕事ができない	全くわからない
卅	よくはなをかむ	時にある	よくつまる	たびたびあるが我慢できる	臭いがやっとなわかる
+	1日に2,3回はなをかむ	1日に2,3回気づく	つまるが気にならない	時々気になる	少しわかる
-	全くかまない	なし	なし	全くなし	なし

他 覚 所 見

発 赤	鼻 粘 膜		鼻 汁	
	下甲介粘膜		量	性 状
	腫 脹	色 調		
卅 著しい発赤	中甲介見えず	蒼 白	鼻腔一杯に存在	膿 性
卅 発赤がある	卅と+の中間	赤	中鼻道にある	膿粘性
+ 軽度の発赤	中甲介中央まで	薄 赤	少し存在	粘性～漿液性
- 発赤なし	な し	正 常	全くない	な し

X 線 所 見

	上 顎 洞	篩 骨 洞
卅	洞内陰影が高度で、周囲骨壁との境界が全く識別できない程度のも	全体に真白で、骨陰影と区別が付きがたい程度のも
卅	周囲骨壁との限界が明瞭でなく、洞内陰影も相当著明なもの	嗅裂は全く閉塞状で骨梁像は全く消失し、陰影はさらに著明であり、全般的に斑紋～紋理状を呈しているようなもの
卅	周囲骨壁は限界明瞭であるが、洞内に明らかな陰影を認めるもの	中鼻甲介の腫脹があり、嗅裂の限界が不明瞭で、骨梁像は見分けがたく、明らかにびまん性の陰影を認めるもの
+	周囲骨壁は限界明瞭であるが、洞内に多少びまん性のごく軽い陰影を認めるもの	骨梁像は多少判然としませんが、嗅裂があいており、多少びまん性のごく軽い陰影を認めるもの
-	洞内影像が明澄で、陰影が認められないもの	洞内影像は明澄で、陰影が認められず、骨梁像の明瞭なもの

改善度の判定

変 化	改善度	変 化	改善度
卅 → -	+ 3	- → 卅	- 3
卅 → -		- → 卅	
卅 → +	+ 2	+ → 卅	- 2
+ → -		- → +	
卅 → 卅	+ 1	卅 → 卅	- 1
卅 → +		+ → 卅	
変化なし	0	変化なし	0

+ 3 : 著明改善
 + 2 : 改善
 + 1 : やや改善
 0 : 変化なし

判 定 基 準

平均改善度が+2を超え+3まで：著効
 平均改善度が+1を超え+2まで：有効
 平均改善度が 0 を超え+1まで：やや有効
 平均改善度が 0 以下 -1まで：無効

平均改善度：各改善度の合計を検討項目数で除したもの
 (但し - → - は項目数から除外)

症度分類及び判定基準を示した。

図 1 は、自覚症状の改善度を各項目別にみたものであり、投与 8 週後の著明改善と改善をあ

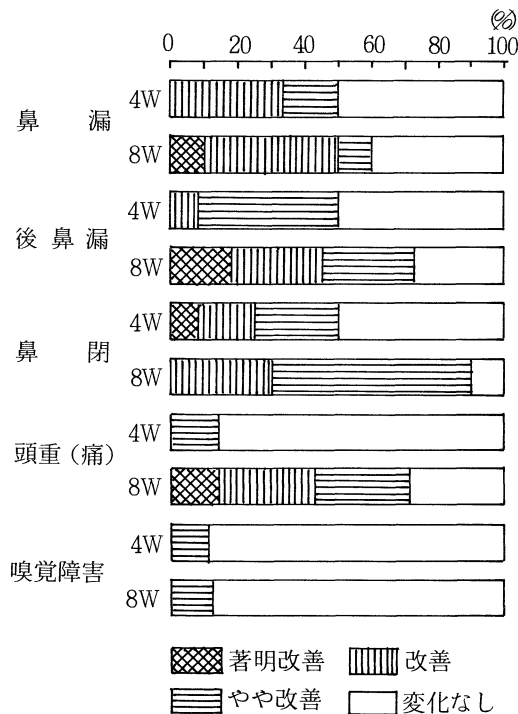


図1 自覚症状改善度

合わせた有効率は鼻漏は50%，後鼻漏45.5%，鼻閉30%，頭重42.9%，嗅覚障害0%だった。鼻漏，後鼻漏，頭重において改善度の高い傾向

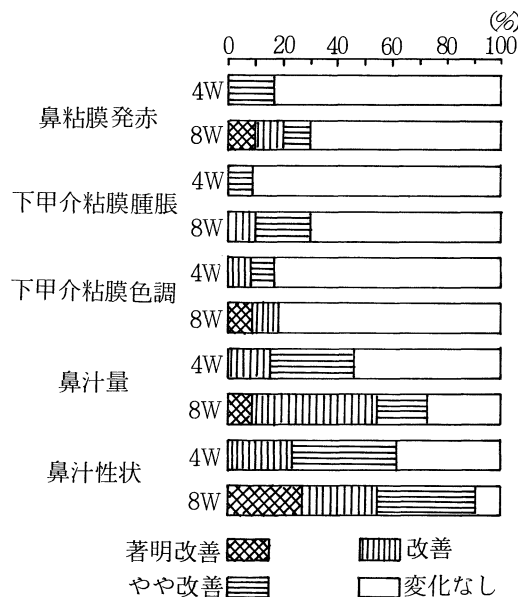


図2 他覚所見改善度

がみられた。図2は他覚所見の改善度を各項目別にみたものである。鼻粘膜の発赤，下甲介粘膜の腫脹，下甲介粘膜の色調に関しては，あまり高い改善はみられなかったが，鼻汁量では投与8週後の著効と有効を合わせた有効率は54.6%を示し，又，鼻汁の性状でも投与8週後，54.6%を示した。鼻汁の量及び性状の改善度の高い傾向がみられた。

鼻汁の性状では，投与前に膿性あるいは粘膿性を示した3例において鼻汁が消失しており，更に他の症例においても，投与後，たとえ鼻汁が存在していても粘性から漿液性の状態に推移している結果が得られた。

図3はX線所見改善度をみたものであり，投

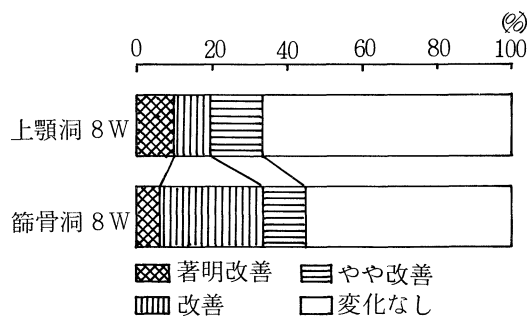


図3 X線所見改善度

与8週後の上顎洞，篩骨洞の著効，有効を合わせた有効率は，それぞれ19%，33.4%だった。

図4は自覚症状，他覚所見，X線所見の平均改善度，更に全般改善度を示した。著効と有効を合わせた有効率は，自覚症状では45.5%，他覚所見，X線所見とも27.3%で，自覚症状の改善度が最もよい結果を示した。

全般改善度では，著効と有効をあわせた有効率は27.3%で，やや有効を含めると100%となり，ブロンカスマ・ベルナ投与により，何らかの症状の改善が全例において認められた。

なお，ブロンカスマ・ベルナ投与により，誘発反応，ショック症状その他の副作用は全例に

認められなかった。

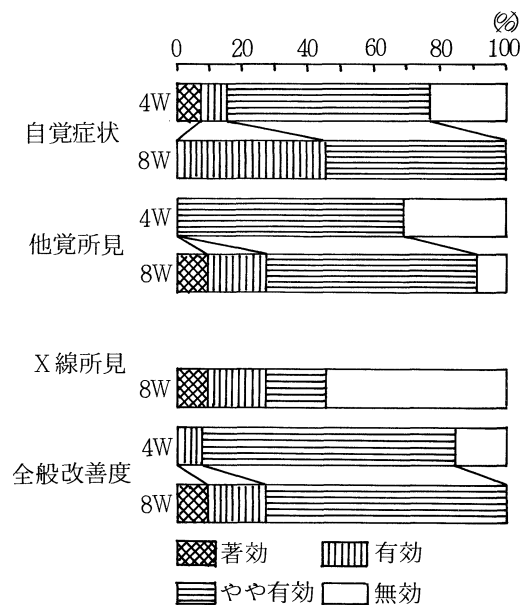


図4 総合判定

討 論

質問：内藤（保健衛生大）

皮内反応成績とネブライザーでの治療成績には関連が認められましたでしょうか。

応答：世良（広島大）

ブロンカスマ・ベルナ皮内反応は施行しています。従来いわれているように即時型遅延型などみられていますが、効果との相関は特にみられませんでした。